

戦評用紙

第 1 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第21回東京都ミニバスケットボール鈴木正三杯	開催日 平成30年1月21日	会場 府中市郷土の森体育館
男子 ・ 女子	対戦名 船橋ベリーズ VS	国分寺M B B C

1Q
白・船橋⑩、青・国分寺⑧のティップオフで試合開始。立ち上がり青が⑧⑤の連続得点で先制。すぐさま白は⑨⑦の連続得点で振り出しに戻す。その後両チームとも激しい攻防を繰り返す。白⑦青⑤⑧を中心に得点を重ね両チームともリードを許すことなく同点で1Qを終了。

2Q
残り5:29青④がフリースローを2本決め⑨がリバウンドで連続得点しリードを広げる。白は④のドライブで反撃するも、徐々に長身の青⑨がゴール下を支配。ローポスト、オフENSリバウンドで得点を重ねる。ディフェンスリバウンドもことごとく奪い白の反撃機会を奪い、青6点リードで前半終了。

3Q
青ボールで前半開始の早々に④が鋭いドライブから得点。白は④のミドル、⑨のバスケットカウント3点プレーで3点差まで詰め寄る。しかしながらこのクォーターも青⑨がゴール下を支配。青が⑨に加え⑤⑧で連続得点、12点を積み重ねる間に白は2分以上無得点の時間が続き15点差。残り1:39に⑩の久々の得点で息を吹き返し、⑦のスチールから連続得点。その後両チーム2得点し11点差で3Q終了。

4Q
立ち上がり青⑨白⑨が得点后、両チームとも激しいディフェンスにより1分近く得点のない時間帯が続く。残り3:44白⑨のドライブで白が反撃を開始。白のディフェンスが圧力を強めスチールが日立ち始める。しかしながらゴール下は引き続き⑨が支配。一進一退の攻防を繰り返す。残り2分を切って白が④⑧と連続得点し突き放す。白は最後までディフェンスの頑張りでも得点差を詰めることはできず。国分寺M B B Cが決勝にコマを進めた。

チーム名	得点		得点	チーム名	記入者名
船橋ベリーズ	35	$\left(\begin{array}{c} 10 \text{ --- } 10 \\ 6 \text{ --- } 12 \\ 11 \text{ --- } 16 \\ 8 \text{ --- } 14 \end{array} \right)$	52	国分寺M B B C	大南 幸寛
					所属
					広報委員会

戦評用紙

第 2 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第21回東京都ミニバスケットボール鈴木正三杯	開催日 平成30年1月21日	会場 府中市郷土の森体育館
男子 ・ 女子	対戦名 新生MBC	VS 小金井ミニバスケットボールクラブ

1Q
 開始10秒新生④ジャンプシュートで先制。小金井も⑤ドライブインで反撃。その後互いにシュートを放つが得点ならず一進一退。残り2:30新生⑩がミドルシュートを連続で決め6対2と主導権をにぎる。残り1:30新生⑦リバウンドからのシュートを決め8対2とリードを広げる。小金井は残り30秒⑦ジャンプシュートが決まり8対4 1Q新生リードで終了。

2Q
 開始早々は互いにシュートが決まらず一進一退で得点ならず。その後新生⑥⑤の連続ミドルシュートが決まり12対4となりたまたま小金井タイムアウト。小金井⑬がミドルシュートを決め反撃にかかるが、新生⑤ファールからのフリースロー、⑤ミドルシュートで加点。小金井も④ドライブインでフリースローから加点するが18対9新生リードで前半終了。

3Q
 新生⑤ファールからのフリースロー⑥ジャンプシュートで20対9と差を広げにかかる。小金井は⑤ドライブイン④のポストから加点し反撃。新生も⑤リバウンド⑭のミドルシュートで加点。小金井も⑤ジャンプシュートや④のシュートで加点。新生⑭がミドルシュート決め28対17、3Q終了し新生が11点リード。

4Q
 開始早々小金井⑨がリバウンドから④がドライブインで連続得点。28対21で小金井が追い上げる。新生は⑤の連続ドライブインで加点。たまたま小金井タイムアウト。その後④連続ドライブイン⑨ポストで反撃し32対27残り1分を切り新生④⑤が連続で得点し、36対27で新生が勝利し決勝進出。

チーム名	得点		得点	チーム名	記入者名
新生MBC	36	$\left(\begin{array}{cc} 8 & \text{---} & 4 \\ 10 & \text{---} & 5 \\ 10 & \text{---} & 8 \\ 8 & \text{---} & 10 \end{array} \right)$	27	小金井ミニバスケットボールクラブ	小島 一俊
					所属
					広報委員会

戦評用紙

第 5 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第21回東京都ミニバスケットボール鈴木正三杯	開催日 平成30年1月21日	会場 府中市郷土の森体育館
男子・ 女子	対戦名 国分寺MMBC	VS 新生MBC

1 Q 地力を見せて準決勝をしっかりと勝ち切った同士の対戦。ティップオフは新生ボール、⑤のドライブからのショットは外れるが、その後のディフェンスを頑張っ国分寺のターンオーバーを誘う。新生⑤はドライブから得たフリースローを1本決め、更にドライブを決めて3対0と新生が先行。国分寺は④が果敢に攻めるが新生の厳しいディフェンスに阻まれ、残り時間4分弱でタイムアウトを取らざるを得ない。お互いにミスが続く中、国分寺は長身の⑨がエンド・スローインからのポストプレイでチーム初の得点。新生はダブルチームを交えた攻撃的なディフェンスで国分寺のターンオーバーを誘う一方で、⑤のジャンプショットにフリースロー1本、⑥の速攻からのバスカンとボーナス・スローで加点し、残り時間1分余りで9対2と国分寺を突き放しにかかる。終盤にかけて、国分寺は④と⑦のジャンプショットで反撃に出たが、新生も⑤のジャンプショット、⑩の速攻、⑤のブザー・ビーターで流れを渡さず、15対6と点差を拡大。

2 Q 新生④のジャンプショットによる得点でスタート。国分寺は⑧と⑤が積極的に攻めるが、新生のディフェンスが引き続き厳しく、5分が経過してなおフリースローによる3得点に留まる。新生は④がミドルショット、ドライブ、アシスト・パスと大車輪の活躍を見せ、サイズにも勝ることでリバウンドを支配し、⑧と⑩がスピーディな速攻で加点する。国分寺は終盤の⑧の速攻からのバスカンとボーナス・スローで息を吹き返し、更に⑤がドリブル・スティールから連続得点、新生は残り時間24秒ながらタイムアウトを取ることを余儀なくされる。タイムアウト明けの攻めは双方ともシュートを決め切れない。結局2Qだけ見ると新生の10得点に対し国分寺は8得点と、ほぼ互角の戦いを見せた。

3 Q 後半は両チームとも一転して、パスをしっかりと回しながら自チームの強みを出そうとする展開に。国分寺⑧がドライブで得たフリースローを2本とも決め、幸先良いスタート。新生は④がドライブで返し、国分寺⑨のリング下での得点に対しては、新生⑤がジャンプショットを入れ返す。お互いにミスは少なく、新生④がミドルショットを2本見事に沈めたのに対し、国分寺は⑨がリング下で2本入れ返して譲らず。お互いにディフェンスを頑張り、簡単には得点できない状況の下、新生⑥の速攻に対し国分寺は⑨がリバウンド・ショットをねじ込み、国分寺⑧の強気のドライブに対し、新生は⑤がフリースロー1本にドライブによる得点で流れを渡さない。終盤も、国分寺④がフリースローを2本決め切るが、新生は⑫がリバウンド・ショットを入れ返し、結局3Qの得点は新生が15点、国分寺が14点と引き続き拮抗。

4 Q 国分寺ボールで始まったが新生④がパスをスティール、そのままミドルショットまで持ち込む。新生④は更にジャンプショットを決め、流れをつかみかける。国分寺は④が何とかドライブを決めるが、新生のディフェンスは引き続きアグレッシブで、国分寺はターンオーバーが先行する展開となる。国分寺は、失点こそしなかったものの2回連続で新生の速攻を受け、残り時間3分余りでタイムアウトを取って立て直しを図る。タイムアウト明け、新生は④がジャンプショットを決めて国分寺の出鼻をくじき、国分寺⑨の連続5得点に対しても、新生④はミドルショットを2本連続で決め、結局4Qのチームの全得点を稼ぎ出す。国分寺は最後まで攻め続け、⑤がミドルショットとドライブで連続得点を果たすが、残り時間49秒で新生はタイムアウトを取って⑦⑧がコートに入り、6年生5人で嬉しい初優勝のブザーを聞いた。後半だけ見れば同点であり、力を出し尽くした両チームの健闘を称えたい。

チーム名	得点	得点	チーム名	記入者名
国分寺MMBC	39	50	新生MBC	堀野正人
	6 — 15			
	8 — 10			
	14 — 15			
	11 — 10			
				所属
				広報委員会